

藤河内溪谷周辺地域の植物



秋の藤河内溪谷立松谷

この地域は、大分県の南部、宮崎県との境界をなす夏木山、木山内岳、桑原山の山峻に囲まれた藤河内溪谷上流域一帯で、鋸切谷、立松谷など幾つもの深いV字谷が発達し、きわめて急峻な地形を示しています。

この地域一帯は、以前は広く自然林に覆われていましたが、谷沿いを中心にスギの植林化が進み、その多くが失われました。しかし、現在でも尾根や山腹の一部、溪谷の険しい崖地には自然林が残っており、その多くが祖母傾国定公園の特別地域として保護されています。

今回の調査では、シダ植物と種子植物、合わせて648種が生育していることがわかりました。

山腹の植物

標高800～1,400mの山腹一帯には、以前はブナやモミ、ツガの森林が広がっていました。植林化でその多くが失われましたが、現在でも部分的にその残存林がみられます。残存林には、この地域を代表するソハヤキ要素の植物が多く見られます。

※ソハヤキ要素の植物

主として九州、四国、紀伊半島の山岳地域を中心に分布する日本固有の植物群。



山腹のツガ林



ブナ林内に特徴的なコハクウンボク



ソハヤキ要素の植物オオモミジ



ヒコサンヒメシャラ



ホソバナコバイ



夏木山の鋸切尾根

尾根や岩角地の植物

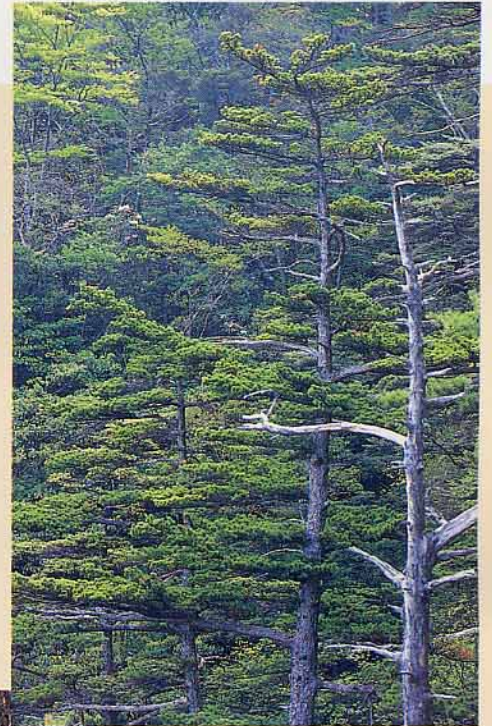
尾根や岩角地には、険しい地形のため採伐をまぬがれ、自然状態のよく保たれた森林が残っています。その中心はアカマツやヒメコマツの森林で、林内には厳しい環境に適応力の大きいツツジのなかまが多くみられます。藤河内溪谷周辺地域を特徴づける、多様性に富んだ植物相(フロラ)を有しています。



ツクシアケボノツツジ



ヒカゲツツジ



尾根のヒメコマツ林

溪谷の植物

藤河内周辺地域は年間降水量が2,400mmを越える大分県下屈指の多雨地域です。山腹には豊富な水量の沢と、その強い浸食作用により、深いV字谷が幾つもきざまれています。

急峻な地形とカコウ岩質の固い地質から、浸透性、保水力が低く、また、浸食作用により、森林土壌が流出しやすいため、溪谷周辺では広く岩盤が露出しており、植物相は比較的貧弱です。しかし、溪谷沿いに発達した森林には、この地域に特有の貴重な植物が数多くみられます。また、古くからシダ植物の豊庫として知られていました。



トキワシダ



ツクバネウツギ



ウチワダイモンジソウ



アワモリショウマ